

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500081		
法人名	特定非営利活動法人 熊毛清風会		
事業所名	グループホーム おかでら荘		
所在地	山口県周南市大字樋口262番地1		
自己評価作成日	令和元年 5月 15日	評価結果市町受理日	令和 1年 9月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和元年 6月 11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型施設としての在り方を、常に慢心することなく、追及してサービスを提供しています。小学校に隣接し、近所に幼稚園、少し歩けば鳥帽子ヶ岳が一望でき、田園風景の中、空気もよく、最高の環境の下、サービスを提供することができます。窓を開ければ元気な小中学校生徒の声、鳥のさえずりが聞こえてきます。幼稚園児、小中学生との交流が多々あります。当法人では、利用して頂くにあたり第二の我が家として職員、他利用者様とともに笑顔で過ごせるような環境作りに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は朝礼時や月1回の内部研修の他、職員用の意見箱の設置、随時行われるアンケート調査など、職員から意見や提案を聞いておられます。職員はこれまでにあった行事の企画や展示物、広報など既存の洛割分担業務の他に、新たに介護技術向上委員、虐待・身体拘束O委員、レクリエーション技術向上委員を担われることで更なる資質の向上を図っておられます。食事づくりでは、毎週金曜日に「カレーの日」を設定されて、利用者を中心に野菜の皮むきや下ごしらえなどを行って楽しいひとときを過ごされている他、季節の行事食(雑煮、恵方巻、ソーメン流し、年越しそば)や、おやつづくり(鯛焼き、パンケーキ、スイートポテト)、保存食づくり(梅干し、ラッキョ、干し柿)、外庭で鉄板での焼きそばづくり、弁当持参でのお花見、月に1回は、昼食やおやつのお買物を楽しまれるなど、食を楽しむ多くの支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に対する取り組みを職員全員で話し合い玄関内に掲示して意識統一を行っている。年度初めには、運営の方針、理念の再周知を行っている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、行動指針と併せて事業所内に掲示している。代表者と管理者、職員は年度当初に理念について確認し、毎月実施している内部研修の中で、理念を基にした話し合いを行って理念の共有を図り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1度近所のスーパーへ買物。幼稚園児、小学生生徒との交流、地域のイベントへの参加をしている。自治会地域協力員の方が毎週金曜日に来訪される。	代表者が自治会の理事会に出席して、事業所の活動の紹介や地域の情報を得ている。職員は年1回、地域の清掃作業に参加している。事業所行事の紹介やトピックスを記録した、地域向けの「事業所便り」を毎月、自治会に回覧している。利用者は、幼稚園や小学校の運動会、地域の夏祭り、年2回ある公民館祭りに職員と一緒に参加して交流している。事業所で開催している夏祭り(ソーメン流し、スイカ割り、かき氷)に来訪の人や毎週金曜日の「カレーの日」に来訪の自治会協力員、遊戯の披露で来訪の幼稚園児と交流している。ボランティア(フラダンス、日本舞踊、音楽セラピー、傾聴)の来訪があり、交流している。買物時や散歩時に会う人と挨拶を交わし、花や野菜、果物(ビワ、金柑)の差し入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。小学生の高齢者とのふれ合い体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア受け入れ、幼稚園児、小学生生徒との交流にて認知症の方の理解や支援の方法を知って頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に外部評価の意義を説明し、自己評価は全職員対象に実施した。	代表者は、内部研修で評価の意義を説明し、自己評価をするための記録用紙を全職員に配布し、記入後、一人でもまとめている。職員は、日々のケアを利用者の立場に立って振り返っている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、事故防止に向けた感染症対応や緊急時、送迎時のマニュアルの見直しを行い、褥瘡の処置や表皮剥離、切り傷、擦り傷、誤嚥等の初期対応を学んでいるなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回(第2金曜日)運営推進会議にて利用者の状況、ヒヤリハット事故、行事の実施報告、評価の項目に沿った内容を話し合っている。朝礼・施設内研修にてそれらを盛込んだ内容としている。	会議は2カ月に1回開催し、事業所の活動や利用者の状況、行事予定、外部評価の取り組み状況、事故・ヒヤリハット報告、職員の研修報告等をした後、話し合いをしている。地域行事の紹介や事業所に続く道路環境整備の取り組み状況についての検討など、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から地域包括支援センターの方や、疑問に思った事は市の職員に確認を取り運営している。特に運営推進会議はよりよい場とし協力関係構築に努めている。	市担当者とは、運営推進会議参加時や直接出かけたり、電話等で情報交換や運営上の疑義について相談し、助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や直接出かけて情報交換を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0委員による検討会議を3ヶ月に1度実施し、施設内研修時にて報告・周知を行っている。	職員は、マニュアルを基にした内部研修や3ヶ月毎開催している「身体拘束対策委員会」の中で学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。スピーチロックについて気になる場合は代表者や管理者が指導している。玄関には施錠をしないで外出したい利用者があれば、職員と一緒に出かけているなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	組織の構築、委員の設置、検討会議、報告を行っている。意見箱を職員部屋と1号館玄関に設置。ボランティア様からの意見を検討会議に活かしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアプランを元に、個々の支援統一と自立度等を職員さんが理解したうえでの支援に取り組んで頂いる。成年後見人制度利用者(平成28年1月12日亡)現在利用者無し。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、入居契約書を元に十分な説明と納得を得ている。利用者様、ご家族に不利益がこうじる事の無いよう十分に行えている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に基本利用料現金払いとし、ご家族に入居者さんの報告や相談・苦情を言える機会を多く持っている。意見箱の設置。運営推進会議を利用し外部の方からの提案も反映させている。運営推進会議録玄関掲示。 平成29年4月より運営推進会議、主任参加。	相談、苦情の受付体制、第三者委員、外部機関、処理手続きを明示し、契約時に家族に説明をしている。面会時や基本利用料金支払いで来訪時、運営推進会議参加時、行事(夏祭り)参加時、電話等で、家族からの意見や要望を聞いている。意見箱を設置している。意見や相談は申し送りノートに記録して職員間で共有している。医療に関する要望や演奏会の提案などがあり、ケアプランに反映し、受診につなげているなど、運営に反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼、毎月10日の施設内研修にて皆さんで自由に発言できる場を設けて皆さんで考え反映している。アンケート形式での意見箱の活用。主任制度の充実。(キャリアアップ基準書完備)	代表者や管理者は、月1回の内部研修時やカンファレンス、毎朝の申し送り時、委員会活動を通して直接聞いている他、職員用の意見箱の設置や随時行う無記名アンケートの実施、主任を通して聞いている。感染症対策のための備品整備やマニュアルの見直し、介護用品の取り扱い、勤務体制の変更などの意見を反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の地域貢献、ボランティア活動、育児介護等推進している為、希望休を優先し勤務表を作成している。就業規則内、キャリアアップ基準書、賃金表完備。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を計画的に行っている。外部研修は平成29年4月より年度内最低1回、全職員自己申請外部研修参加実施。キャリアアップ基準書完備。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。今年度はレクリエーション、介護技術、認知症等を受講している。受講後は研修記録を提出し、内部研修で伝達し、資料は閲覧できるようにして全員が共有できるようにしている。内部研修は、年間計画を立て、毎月、代表者や管理者が講師となって、理念や感染症、認知症、事故防止、外部研修の報告、各種マニュアルの見直し等、課題や時宜を得たテーマを実施している。職員に役割（行事、研修、誕生日会、展示物、事業所便り、クラブ活動、介護技術向上、虐待・身体拘束0、レクリエーション技術向上等各委員）を持たせて、職員の質の向上に向けた取り組みをしている。新人職員は日々の業務の中で、主任の指導を受けて学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修にて交流する機会を作っている。理事長が同業者の運営推進委員となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまでに管理者（介護支援専門員）と主任が利用者さんと面談し要望・不安を事前に取り除いている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族による事前見学にて不安や要望等も聞き契約の段階でしっかりと信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事の相談、介護保険制度のしくみを説明し、ケアマネジャーと連携をとり速やかに対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	機能訓練を兼ね、出来る事は行って頂く支援を行っている。家事、洗濯物干し・たたみ、料理の下ごしらえ等、協働して出来る機会を設けている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用料支払いは基本現金払いのため、ご家族が来荘され、入居者様と面会している。状態報告、ご家族からの要望、ご家族へのお願い等が密に行えている。当法人独自のアセスメント使用。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽な面会、外出支援や、ボランティアの来訪、関係作りに努めている。	家族の面会や親戚の人、同級生、同僚、趣味仲間、近所の人の来訪がある他、年賀状や電話での交流を支援している。利用者の孫が経営する店や檀家寺、地域の祭りや孫の運動会に出かける支援をしている。家族の協力を得て、馴染みの理美容院の利用や結婚式、法事への参加、墓参り、外出、外食、外泊、一時帰宅等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中状態変化のないかぎり、なるべくフロアーにて過ごしていただけるような取り組み(テレビ鑑賞・パズル・かるた・散歩等)で雰囲気づくりに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去届にて、明記している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝の朝礼にて入居者さんの意向、希望、思い等があれば皆で検討し把握に努めている。日常の会話、表情、動き等から本人の想いをくみとり、アセスメントを活用し介護計画に盛り組んでいる。	入居時には家族から基本情報や生活歴を聞き取り、フェイスシートやセンター方式の「私の姿と気持ち」シートに思いや暮らし方の希望、意向を記録している。日中のレクリエーション時や入浴時間に思いを聞くようにしており、日々の関りの中での利用者の会話や表情、行動等の気づきを個人日誌に記録して、思いや意向の把握をするように努めている。困難な場合は、職員間で話し合って、本人本位に検討している。	・思いの把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者さんに少しでも早く新しい環境に慣れていただく為と事例が困難になって対応する事のないように入居の際、ご家族から得た情報をフェイスシート、サマリー等で職員間で情報の共有を行っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状維持が保たれているかどうか等、毎朝、バイタルチェックを行い記録している。状態変化時は主治医と相談し、申し送り帳を通じ、朝礼時や施設内研修時にて把握・検討している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、御家族の要望・希望と現状に必要とされる介護計画を、職員アンケートや日々の職員同士の会話・記録よりアセスメントに記入し、介護計画を作成している。計画変更前に担当職員さんがその総合経過をまとめ、計画者が精査し計画作成を行い家族同意の下行っている。。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、カンファレンスを随時開催し、本人、家族の思いや意向、主治医、看護師、管理者の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている。利用者の状態に変化がある場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員一人一人が個人記録、申し送り帳に細かく記入し情報を共有しながら実践や見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の要望・様態に応じ、職員の意見を出し合い、その日の朝礼時に決定・変更・実行したり急なドライブで気分転換を図ったり、小規模だからこそ行える「柔軟な姿勢」を活かしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽療法、相談員、傾聴ボランティア、日本舞踊、小学生、幼稚園児、美容師(2ヶ月に1回)、地域の方と触れ合う機会を設けている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の説明と共に日々の健康相談、定期受診、緊急時の往診、入院時の紹介状等すみやかに行える様、常に連携している。終末期の利用者様には往診して頂いている。	本人及び家族の希望するかかりつけ医としている。協力医療機関がかかりつけ医の場合は、月1回の定期受診と必要に応じて往診があり、支援している。歯科は必要に応じて受診支援をしている。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は業務日誌に記録して職員間で共有し、家族には面会時に報告をしたり、状況によっては電話で報告をしている。利用者の健康管理は看護師である管理者が行い、夜間や緊急時には協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の朝礼時、身体変化時等、常に管理者(看護師)の指示を受けるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、病院のケースワーカーさん看護師さんと連絡を密に行い、面会しては状態、状況把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の要望があれば看取りまで行っており、家族との連絡体制や医療連携等、検討や準備を行い安らかに旅立ちご家族が悔いを残されないように出来るだけ付き添って頂いている。	事業所でできる対応について、契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合には、早い段階から本人や家族の意向を聞き、主治医や看護師、関係者と話し合っ、方針を決めて共有し、他施設や医療機関への移設も含めて支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	普通救命講習受講に毎年参加している。申し送り帳を活用し未然に事故防止に努めている。ヒヤリハット、アセスメントの活用にてケアマネジメントの充実を行っている。平成31年3月14日 外部講師として消防署署員に来訪して頂く。	事例が生じた場合は、「事故・けが・ヒヤリハット・苦情・要望報告書」に原因や対応、予防策を記録し、回覧するとともに朝礼で注意を呼びかけている。各ユニットの主任を中心に再発防止策を検討し、一人ひとりの事故防止に努めている。職員は消防署による救急救命法を受講し、事故防止に向けた緊急対応や感染症対応、送迎者の各マニュアルをつくり、内部研修では、褥瘡の処置や擦り傷、切り傷、誤嚥、転倒、表皮剥離、感染症について実践力が身に付くように取り組んでいる。	・全職員での応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成28年3月6日、周南消防署員・光消防署員10名、消防団員115名と合同避難訓練を実施することが出来、年2回避難訓練実施。地域との協力体制構築の為、日頃から顔なじみなるようイベント等に参加させてもらっている。	事業所の防火管理者の下、年2回、夜間の火災、地震、土砂災害を想定した通報訓練や避難訓練、消火器の使い方、避難経路の確認を利用者も参加して実施している。毎月、職員間の緊急連絡網の通報訓練を実施している。代表者は地域の自主防災組織、消防分団員に所属するなど、地域との協力体制が得られるように取り組んでいる。非常用食品は倉庫を設置して備蓄している。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんは人生の先輩として教わることも多くあり、声掛けに対しては常に気を配り、生活歴を念頭に置き会話をしている。	職員は内部研修(理念やパーソンドケア)の中で学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや目線に注意した対応をしている。個人情報取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話、レクリエーション等を通じ自己決定や希望等を引き出して聞いている。自己の感情が出やすいように、信頼し合える人間関係作りを行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の心のゆとりが他の人のペースに合わせる事が出来たり、事故防止・チームワーク形成に繋がる事を常に念頭においている。その人らしい日々の過ごし方を大切に、私情をはさまない支援を提供している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんに対する身だしなみへの関心、興味が無くならないよう気をつけ褒める声かけを行い、衛生、健康、身だしなみ、季節に応じた洋服、着替えの少ない方は家族に連絡し購入して頂いている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルに花を飾り、イベントや毎週金曜日のカレー等手伝って頂いている。食事の準備・片付け、食器洗い、拭き、下膳できる人は自分で行って頂くよう毎日の日課としている。外出支援での外食、月1回の昼食購入を目的とした買い物を行っている。	食事は昼食と夕食の副食は配食を利用し、主食と汁物、朝食は、事業所の畑で取れた野菜や新鮮な食材を使って事業所でつくっている。利用者の状態に合わせて、形態の工夫や食品交換をして提供している。利用者は野菜の皮むきや下膳、おやつづくりの時には混ぜる、ひっくり返すなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、食材の話をしながら一緒に食事をしている。毎週金曜日は「カレーの日」として、地域からの参加者と一緒に食事をしている。家族が食事介助に来訪することもある。月に1回、買物に出かけて、好きな昼食弁当やおやつを購入している。おやつづくり(鯛焼き、パンケーキ、スイートポテト)や外庭での焼きそばや弁当持参の花見等の戸外食、ケーキの付く誕生日食、季節行事食(おせち料理、恵方巻、ソーメン流し、年越しそば、雑煮)、保存食づくり(梅干し、キュウリの漬物、ラッキョ、干し柿)、家族との外食など、食事が楽しみなものになるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた量、形状を提供している。状態に合わせて飲み込みの悪い方には、刻み食、水分にはトロミをつけ、出来るだけ自力で摂取して頂き残量を介助している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の30分後、利用者さんに声をかけ働きかけをし、出来ない所はしっかりと介助し清潔を保持している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に記入し排泄パターンを知り、声かけ・誘導・個々にあったパット使用等を話し合い柔軟に対応している。	排泄表を活用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに応じた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	動かない生活ではなく、一人一人にあった、お手伝いや体操・レクリエーション・個々の機能訓練にて予防とし野菜を多く献立に工夫して頂き、散歩ができる方は敷地内を積極的に歩いていただいている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	行事などの都合もあるが、基本は午前中に入浴して頂いている。強要はせず他の方と変更・入浴回数増するなど柔軟に行っている。希望に応じ足浴も行っている。	入浴は毎日、10時30分から11時30分まで可能で、順番や湯加減、入浴剤の利用など、利用者の希望に合わせてゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴、部分浴、リフト浴など個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠して頂くために日中に適度な機能訓練を行って頂いている。昼夜逆転にならない範囲で休息をとっていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理者(毎年度担当変更)を各号館へ配置。服薬の残数と共に状態報告を管理者へ報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換の外出支援の実施、趣味の畑仕事・料理、洗濯干し、洗濯たたみ等の役割の提供、ボランティア受け入れを行っている。 外出支援では、普段からの要望を記録し、個別にも叶えている。嗜好品は月1回の買物支援にても実施。	掃除(モップで床拭き、玄関を掃く)、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、洗濯物を収納する、カーテンの開閉、新聞を取り入れる、花瓶の水を換える、新聞紙でゴミ箱づくり、野菜の皮むき、下膳、おやつ作り、保存食づくり(梅干し、胡瓜の漬物、らっきょ、干し柿)、畑に苗植え、草取り、さつま芋や胡瓜の収穫、日記をつける、テレビやDVDの視聴、本や雑誌、週刊誌、新聞を読む、折り紙、ぬり絵、切り絵、貼り絵、編物、歌を歌う、カラオケ、かるた、風船バレー、ボール遊び、パットゴルフ、花札、五目並べ、しりとり、なぞなぞ、脳トレ(計算、漢字、四字熟語、間違い探し)、ラジオ体操、しゃっきり体操、口腔体操、季節行事(文化祭、夏祭り、運動会)、ボランティアの来訪、金曜日のカレー、月1回の買物、健康パークで芝居を観る、外出、家族との外食など、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者さんの希望を把握し職員と一緒に庭の散歩やグランドまでの散歩など取り組んでいる。各入居者様のレベルに添った外出支援・散歩等、柔軟に取り組めるよう努めている。買い物(月1回)や季節に咲いた花を見に行く等。	周辺の散歩や外気浴、日光浴、買物、季節の花見(梅、桜、紫陽花、バラ、銀杏、紅葉)、ドライブ(梅園、田布施川、玖珂方面、伊藤公記念館)、寺参り、下松健康パーク、小学校や幼稚園の運動会に出かけている。家族の協力を得て馴染みの理美容院の利用や法事、結婚式に参加、外食、外出、一時帰宅など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、所持金は無し。買い物(月1回)に出られた時は、利用者様の欲しい物が買えるよう立て替え支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末にはご家族へ年賀状を書いて頂き、中には携帯電話を自分で持たれている方もいらっしゃる。不穏時、可能な方は家族に連絡し、会話して頂いている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの上には季節の花を飾り季節感を採り入れ、トイレ内に消臭剤、暑くなれば網戸にし風通しをよく外観し季節感を味わってもらっている。	リビングの前には広いウッドデッキがあり、野鳥の餌台や多くの鉢植えが置いてあり、田園風景とともに季節を感じることができる。室内には広いテーブルと椅子、ソファがゆったりと配置してある。厨房からは食事の準備の音や、お茶の香りが漂い、家庭的な雰囲気を感ずることができる。各ユニットは天井に大きな木材の梁が架かり、広々としており、大型テレビが置かれた広い廊下を通してつながっている。広い廊下は皆でテレビを観たり、家族の面会時には談話をしたり、レクリエーションをする空間ともなっている。温度や湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間(スペース)が広くゆっくりと寛げる空間作りをしている。又、共同作業が出来るようにも心がけている。ソファの活用、テーブルの分割や席の工夫を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出のある写真や物、寝具などの思い出のある物。あるいは使い慣れた物を持参して頂いている。出来る方については、一緒に掃除を行っている。	整理ダンス、衣装ケース、テレビ、小机、椅子、時計、テレビ、造花、整容道具、本、雑誌など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、壁のコルクボードに、家族写真や手紙、カレンダー、誕生日カード、色紙などを飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりがあり、共用空間の位置がわかりやすいように各居室に表札を取り付けている。混合の可能性のあるもの及び、衣装ケースには種類別の名前を記入したり貼っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム おかでら荘

作成日: 令和 元 年 9 月 13 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え →全職員での応急手当や初期対応の定期的 訓練の継続を期待します。	① 事故防止 ② 事故発生時の備え ③ 応急手当や初期対応	①業務日誌・引継ぎ帳の活用 ・出勤後、業務日誌と引継帳を自分の目で確認 し業務に携わる。 ①起案の作成力 ②施設マニュアルの必要性の理解と把握 ・何故マニュアルが必要なのかを理解する。 ・マニュアル内容を把握する。 ・マニュアルの見直し。 ③普通救命講習への参加 ・引き継ぎ、職員の普通救命講習への参加を 行う。 ④消防署立会による応急手当、初期対応の習 得	1年
2	36	○災害対策 →地域との協力体制の構築を期待します。	① 地域の方に当施設内を知って頂く ② 認知症の方への関心を広める	①② 地域ボランティア来荘時の対応力向上 ② 引き続き毎月1回、近隣のスーパーに昼食 をメインに買物実施し地域の方達と顔なじみにな る。 ③地域への協力要請 ・自治会長への緊急要請連絡構築。	1年
3	24	○思いや意向の把握 →思いの把握の工夫を期待します。	① 思いの把握	①アセスメント様式のモニタリング欄活用。本人 の要望と御家族の希望・意向記録の活用。 ②センター方式の「私の姿と気持ち」シート活 用。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。